

令和7年度 文京区立千駄木小学校授業改善推進プラン

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果		令和7年度「全国学力・学習状況調査」の分析	
成果	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約87%、「自分と違う考えについて考えるのは楽しいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約83%おり、国や都の平均を上回っている。	➡	積極的な意見交換が、児童一人一人の思考を深め、新しい考え方や視点を得る機会になっていることがうかがえる。友達と話し合う活動を通して、児童が異なる意見に対しても否定的でなく、そこから新たな知識を学ぼうとする意欲も高いことが考えられる。「対話タイム」を継続して行ってきたことで、多様な意見や考えに触れ、自己の思考を深め、友達と協働的な学習をすすめていることが分かる。
	○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童は約94%、「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童は約88%おり、国や都の平均を上回っている。	➡	児童が友達の意見を大切に、協力しながら課題を解決する姿が見られることがうかがえる。グループやチームなどでの関わりを大切に、自ら課題を見付け、解決のために主体的に学び方を工夫していると考えられる。これまでに身に付けた知識だけでなく、友達と協力して新たな知識を得て、解決しようとしていると言える。
	○「あなたは自分でインターネットを使って情報を収集することができると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約93%、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約90%おり、国や都の平均を上回っている。	➡	児童は、高い情報収集能力があることや、自らの学びを深めていることがうかがえる。自身の知的好奇心を満たしたり、探求的な学習につながると考えられる。また、単にICT機器を操作するだけでなく、自分の考えを整理したりまとめたりして、他者に分かりやすく伝える実践的なICT活用能力があることが分かる。これまでの学習の積み重ねや、児童同士の学び合いをしてきた成果であると言える。
	○「自分には、よいところがあると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約90%の児童が回答した。昨年度調査と比較すると、約5%増加した。	➡	「いいところ見つけ週間」など互いのよさを認め合う活動や教員が児童のよさを引き出す活動を日常的に実施したことや、対話を通じた道徳の校内研究をすすめてきたことで、自分のよさの自覚につながったと言える。また、自分のよさに気付くと、自己肯定感が高くなると考えられる。引き続き、教育活動全体を通して、自分のよさの自覚につなげるよう工夫していく。
課題	△「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いませんか。」に「当てはまる」と回答した児童は48.6%で国や都の上回った。しかし、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童も17.6%いた。	➡	Myタイムで、主体的に学習に取り組み、自ら課題選択ができるようにする。その際、授業で行った内容を発展させたり、次の学習につなげたりできるように指導をする。
	△「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約86%いる。一方、「当てはまらない」と回答した児童が約5%で、国や都の平均を上回っている。	➡	今後も教材研究に努め、児童が理解しやすい授業を展開していく高学年の教科担任制を十分に生かし、様々な児童の良さを価値づけ、困り感に寄り添う。まとめテストを活用し、児童の実態を把握する。金曜日の「放課後質問教室」(全学年)では個の実態に応じた指導をしていく。

以上のことから、今年度の授業改善推進プランの重点は

- 自分の考えをより深めるための対話の工夫
- 自分の課題を見付け、解決する力を身に付ける工夫

とし、各教科における指導の工夫をまとめ、実施していく。

令和7年度 授業改善推進プラン(各教科)

文京区立千駄木小学校

令和7年9月

	自分の考えをより深めるための対話の工夫	○自分の課題を見つけ、解決する力を身に付ける工夫
国語	○本文を読んで考えたことや、言葉や文字の使い方についての自分の考えや経験、考えを練り上げるまでの過程を友達と交流し、共有することで、自分の学びを相対化し、自分がなりたい学びの姿に向かってどのように学習を進め、自分の学習を改善していくかを考えられるようにする。	○文章を読むときに、自分が理解しにくい部分や誤って解釈してしまった点を意識的に振り返り、課題として書き出す。課題を共有し、友だちや教員と話し合うことで、理解を深める方法を見付ける。さらに、自分の考えを整理してノートにまとめることで、次に同じような課題に出会ったときに解決しやすくし、学びを積み重ねていけるようにする。
社会	○調べた内容についてコンセプトマップ等にまとめるだけでなく、調べた内容を友達に説明したり、交流したりするなどアウトプットする活動を取り入れることで、より社会的事実のつながりを意識した学びができるようにする。調べた事実をもとに、それらの社会的意味について考える活動を意図的に設定することで、多面的に考えを深められるようにする。	○「なぜ」「どうして」「もっと調べたい、知りたい」と児童が思えるような学習問題や学習計画を立てることで、児童が意欲的に調べ学習に取り組めるようにする。その際、「何を、どのように調べていくのか」を明確にすることで、調べる内容がめあて(目的)から逸れないようにする。また、学び方(調べ方)を丁寧に確認しつつ授業を行うことで、MYタイムでも同じような学び方(調べ方)で自分で見つけた課題を解決していけるようにする。
算数	○問題の答えを出すだけでなく、自分の考えを説明したり、友達の考え方を聞いたりする活動を取り入れる。その際に、自分の考えをノート等にかかせたうえで交流をさせ、図や表なども活用しながら伝え合い、考えを深められるようにする。検討場面で、1人の児童に説明させるだけでなく、友達の考えを別の児童に説明させる活動を入れる。	○レディネステストや単元テストを振り返り、自分の得意や苦手を知り課題を自ら設定する学習を取り入れる。問題が解決できたら、よりよく問題を解決することの追究も行っていく。一つの方法で解決したとしても、別な方法はないかと考えを進めたり、他の場面ではできないかと問題を発展させたりして、自分の興味・関心に合った難易度の課題を解決できるようにする。
理科	○観察・実験方法を考える際に対話の時間をもつだけでなく、考察の際に対話の時間をもつことで、結果から得られたことを基に全員が話し合いに参加することができ、対話を通して自分の考えを深められるようにする。全ての児童が対話に参加できるよう、導入する場を考えて設定するようにする。	○学習の流れを定着させることで、見通しをもって自分で学習に取り組める姿勢を身に付ける。自分の課題を自覚し、Myタイム等でさらに深められるようにする。学習した内容を自分事に落とすことで、興味・関心をもって意欲的に取り組めるようにする。そのために、発展的な内容等を普通の授業の中で児童に示すようにし、授業やMyタイム等で取り組むことを通じて、自分で課題を設定し、自ら解決できる力を伸ばせるようにする。
生活	○毎時間の振り返りの時間を大切に、学習の記録や写真なども活用して共有しながら、気付いたことや考えたことを対話によって深める。自分の意見との比較や、全く違う考えについては、詳しく伝え合えるようにする。	○単元ごとに学習の見通しをもたせながら、個々の思いや願いを大切に、観察したり、調べたりしたいことを出し合い、活動を広げる。それぞれが集めた情報を共有し、自分では気付かなかったことや、深めたいこと、友達の調べ方やまとめ方などの新たな気付きを得ることで、自分の課題に主体的に取り組み、解決していけるようにする。
道徳	○複数時間の授業を設定したり、役割演技を取り入れたりとすることで、児童が教材や道徳的価値について多面的・多角的に考え、意見を交流できるようにする。 ○自分の考えや立場を明確にした上で他者と意見を交わすことで、新たな視点に気付いたり、考えを深めたりすることができるようにする。	○児童が思わず自分の経験や考えを語りたくなるような倫理的な葛藤を含んだ題材を取り上げることで、児童が自分事として捉え、自己の課題として受け止められるようにする。 ○授業の終末では、道徳的価値に照らして自らを振り返り、課題に気付ける時間を設定することで、これからのどのような意識をもって生活していくかを考えられるようにする。
音楽	○学習内容に応じて、ペアやグループなどの学習形態を工夫し学びの広がりや深まりを実感できるようにする。授業で学んだことやそれを生かして表現できたことを聴き合ったり、自分の考えをもったり、互いのよさを見付けたりして考えを深められるようにする。	○児童が見通しをもって取り組めるよう、単元ごとにめあてを明確にする。友達の考えに触れたり、関わりを通して自分のつまづいていることを捉えられるようにしたり、どのように工夫をするのか考えられるようにする。さまざまな考えや表現の工夫を共有することで、主体的に考えられるようにする。
図工	○授業展開時やまとめの時間に、友だちと互いの活動や作品を見合いながら、考えたことをグループやペアで伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりできるように、活動場所や授業展開を工夫する。 ○「鑑賞活動」をメインにした授業を設定し、教師がファシリテーターとなって児童の思いを引き出す。	○授業導入では、児童が感性を働かせたり経験を生かしたりできるように、映像・参考作品・ワークシート等で意欲を喚起する。材料や用具を精選し、表したいことに合わせて使用できるようにする。創造的な技能を身に付けられるように個々の課題を見取り、適切な支援を行う。児童が試行錯誤を経て、自分の「これがいい!」を見付けられるようにする。
家庭	○児童同士の生活経験の違いを活用して対話に繋がる課題を設定し、調べて、比較して、協力して問題解決するプロセスを定着させる。児童が身近な生活場面をテーマに話し合えるような具体的な問いを設定。実習では、成果物を共有し、作り方や縫い方の工夫などについて話し合うことで、学びを深めていく。	○自己調整学習能力を育むことを目指し、課題発見から解決までのサイクルを重視する。授業導入では、写真や短編動画を用いて身近な生活課題を提示し、児童の問題意識を喚起し、「なぜ?」や「どうすれば?」といった発問を通じて、児童の内発的動機付けを促し、探究的思考を引き出す。単元末には振り返りシートを活用し、「今日の学びで、生活のどのような課題に気づいたか」「その解決のために次に何が必要か」を具体的に記述し、課題解決に繋げる。
体育	○児童一人一人が自己の課題を掴み、その課題の解決に向けてグループ活動を行う。グループ活動では、運動している様子を動画等で記録し、以前の自分の動きや、他の児童と比較しながら、動きの改善方法について話し合うことで、他の視点から自分の動きについて深く考えられるようにする。	○児童に具体的な学習課題をもたせるようにする。「より上達するにはどうするとよいか」「何をできるようにになりたいのか」等、明確化する。運動する際は、課題に対して運動方法やどのような工夫ができるのか児童自身に考えさせ、考えを深めるようにする。児童同士で思考錯誤させながら、成功体験や改善点を共有し、課題を解決させるようにする。
外国語	○スモールトークにおいて、既習表現を想起・活用できるような話題を設定する。対話の継続性を促すような価値付けを行う。生活経験のある話題の内容から、児童が興味や関心のある話題を取り上げる。また、具体的なコミュニケーション活動を行う。自分の考えを深めることができるように、複数回の対話活動を行う。(言語活動→指導→言語活動→指導)	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、単元を通してできるようになることを具体化する。外国語の使用場面の真正性をもたせ、やりとり、活動を自らの課題(自分事)として捉えさせ、取り組ませる。